



## 松野官房長官訪沖



玉城沖縄県知事(右)との面談



平和祈念公園



渡具名護市長(右から3人目)及び久辺三区長との面談



宜野湾市民との車座対話



松川宜野湾市長(右)との面談



宜野湾市役所屋上にて松川宜野湾市長(長官左隣)から説明

松野官房長官が、令和3年11月5日から6日の日程で、長官就任後初めて沖縄を訪れました。

11月5日、平和祈念公園において、国立戦没者墓苑に献花を行い平和の礎等を訪れました。

翌6日には、名護市長・久辺三区長との面談、首里城視察、宜野湾市長との面談及び普天間飛行場視察、宜野湾市民との車座対話、沖縄県知事との面談を行いました。

### 目次

### CONTENTS

松野官房長官訪沖・・・・・・・・・・・・・	1、2	普天間飛行場代替施設建設事業について・・・・・・・・・・・・・	5
幹部職員の紹介・・・・・・・・・・・・・	2	令和4年度 沖縄関係予算政府案について・・・・・・・・・・・・・	6、7
防衛施設周辺対策事業（障害防止）・・・・・・・・・・・・・	3	在沖米海兵隊員による英会話の取り組みについて・・・・・・・・・・・・・	7
沖縄県周辺海域における制限水域について・・・・・・・・・・・・・	4	キャンプ・ハンセン再編に係る給食センターの完成について・・・・・	8

# 松野官房長官訪沖



キャンプ・ハンセン三連協との面談  
(右から長浜恩納村長、仲間金武町長、當眞宜野座村長)



當山嘉手納町長(右)との面談

令和3年12月の2度目の沖縄訪問では、12月19日、キャンプ・ハンセンの視察、キャンプ・ハンセン三連協との面談、恩納村海岸での軽石漂着海岸の現地視察、嘉手納町長との面談を行いました。

## 幹部職員紹介

※撮影時のみマスクを外しています。

本年1月14日付けで総務部長を拝命しました横須賀です。  
 沖縄勤務は初めてになります。  
 沖縄防衛局は業務量、組織、予算の規模が大きく、多忙な地方防衛局であると認識しています。  
 当局業務の円滑な実施のため、総務部長という立場から組織の基盤であるヒト、モノ、カネといった面をしっかりと支えるなど、全力で職務に取り組むと同時に、沖縄の文化にも積極的に触れてまいりたいと思います。  
 どうぞよろしくお願いいたします。



企画部長 はま かずひこ  
濱 和彦

2月1日付けで企画部長に着任いたしました濱と申します。  
 企画部は、地元自治体や地域住民の皆さまのご理解とご協力を得ながら、在沖縄米軍などの関係機関と調整し、普天間飛行場の移設をはじめとする土地の返還など沖縄の基地負担軽減に関する施策に取り組んでいます。  
 沖縄での勤務は初めてとなりますが、これまで防衛本省や他省庁で幅広い業務を担当してきた経験も活かしつつ、全力で職務に邁進してまいります。  
 どうぞよろしくお願いいたします。

昨年11月1日付けで管理部長を拝命しました中筋です。  
 沖縄勤務は初めてですので、世界に誇れる自然豊かな島、沖縄の魅力を学びたいと思っています。  
 管理部は、在日米軍及び自衛隊が使用する演習場や飛行場などの防衛施設に係る取得、管理及び補償や返還地の支障除去等の事務のほか、米軍人等による事件・事故などの対応を行っており、その職責を果たせるよう全力で取り組んでまいります。  
 どうぞよろしくお願いいたします。



## 防衛施設周辺対策事業（障害防止）

令和3年11月12日、安富祖ダムの竣工式典が挙行され、長浜恩納村長や又吉恩納村議会議長をはじめ、多くの関係者の方々が出席され、施設の完成を祝いました。

本施設は、これまで安富祖地域において大雨時に度々発生していた河川氾濫による農業生産活動や周辺地域への被害を防止することを目的とする洪水調整ダムとして、恩納村が当省の防衛施設周辺障害防止事業補助金※を活用して取り組んできたものです。

当局といたしましては、地域住民の皆様方の生活と防衛施設との調和を図ることが何よりも重要であるとの認識の下、地域住民の方々の生活の安定と福祉の向上に寄与するため、今後とも各種施策の推進に努めてまいります。

※防衛施設周辺障害防止事業補助金（防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第3条）とは、自衛隊等の行為により生ずる障害を防止、又は軽減するため、地方公共団体が行う河川改修等に対して助成する制度です。



竣工式典の様子



着工前



完成後



### <<<当局担当者の声>>>

企画部周辺環境整備課の山崎和人です。地域住民の皆様が期待を寄せ、多くの歳月をかけて進められてきた本施設の整備に従事させていただいたことを嬉しく思います。無事竣工を迎えた本施設が、今後長きに渡って周辺地域の安定に寄与することを願っております。

# 沖縄県周辺海域における制限水域について

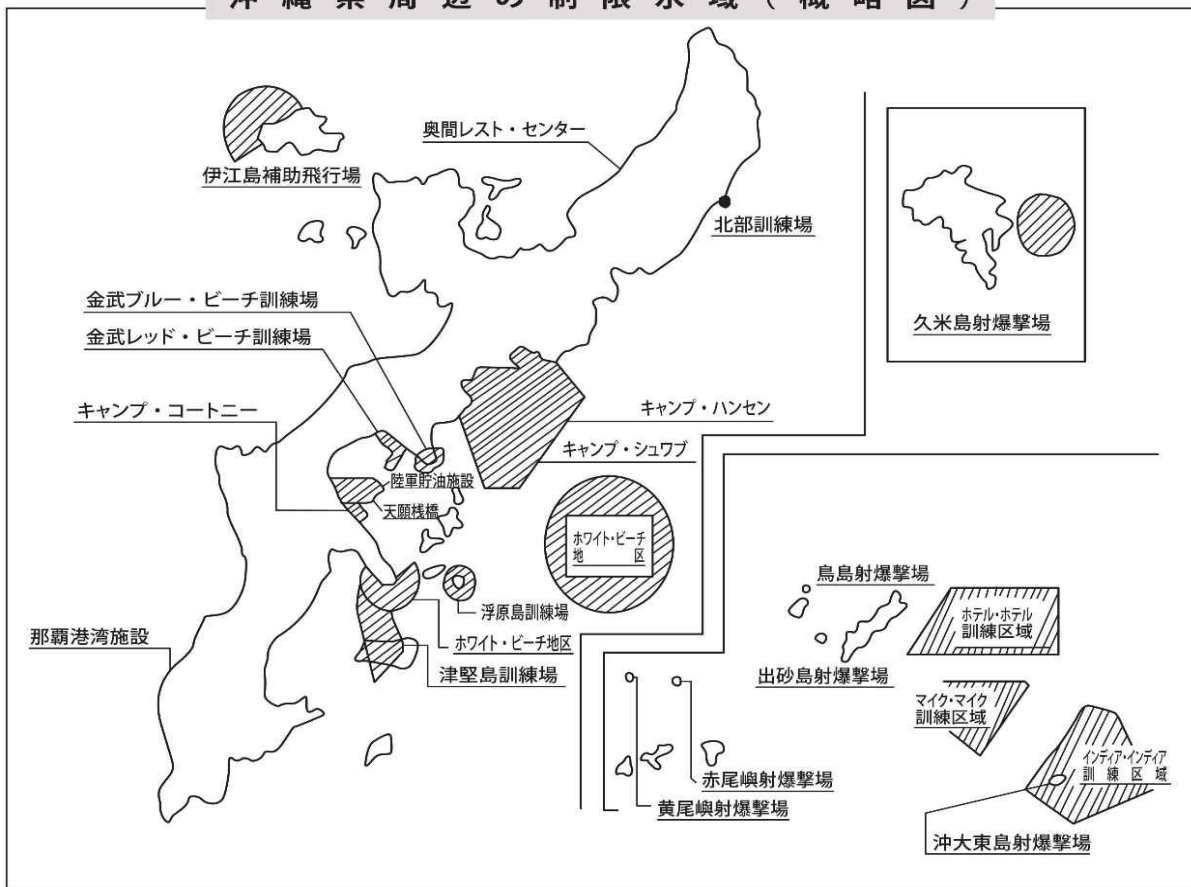
沖縄県は、東は太平洋、西は東シナ海に面し、南北約400km、東西約1,000kmに及ぶ広大な海域において、有人無人島を含め大小160の島々から成り立っています。

このような海に囲まれた地理的条件の中、米軍が使用するために、沖縄県周辺海域には、27の水域が設定されています。

これらの水域のうち、漁業制限の必要のない泡瀬通信施設水域など4つの水域を除く、北部訓練場水域など23水域については、いわゆる「制限水域」として、米軍の訓練等のために、漁船の操業を制限又は禁止される区域となっています。

沖縄県周辺海域の「制限水域」には、米軍の訓練等によって、常に漁船の操業を制限する水域と、使用時のみに制限する水域があり、この使用時のみに制限する水域については、当局から関係する漁協等に対して演習通報を行っています。

沖縄県周辺の制限水域（概略図）



## 演習通報について

沖縄県内には、漁業に従事されている方が多数いるため、漁業の安全確保を維持することは、大切なことです。当局は、米軍から「使用時制限水域」において訓練が実施される通知があれば、演習が行われる水域及び日時について、直ちに第十一管区海上保安本部を始め、沖縄県、関係市町村及び関係漁協等へお知らせして、漁業者の方々の安全な操業を確保するよう努めております。



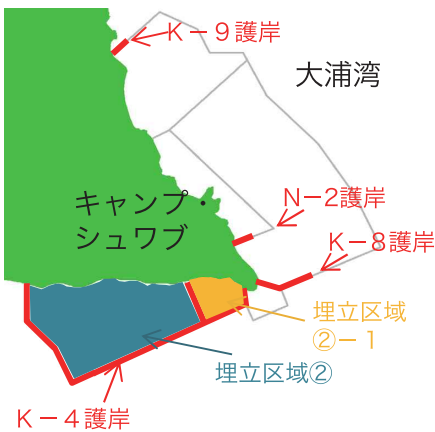
# 普天間飛行場代替施設建設事業について

キャンプ・シュワブにおける普天間飛行場代替施設建設事業につきましては、平成29年11月から辺野古側の護岸工事に着手し、平成30年12月に埋立工事に着手しました。昨年4月には辺野古側の埋立工事が海水面から3.1m(一部護岸沿いは4.0m)まで陸地化し、8月には4.0mまでの埋立てが完了しました。引き続き、4.0m以上の埋立工事を進めてまいります。また、11月にN-2護岸の設置が完了したことから、12月より同護岸からの揚土作業を開始しております。

普天間飛行場の辺野古移設をめぐる問題の原点は、市街地に位置し、住宅や学校で囲まれ、世界で最も危険と言われる普天間飛行場の危険性の除去と返還です。当局としましては、今後とも、普天間飛行場の一日も早い全面返還を実現するため、引き続き、作業の安全に十分留意した上で、関係法令に基づき、自然環境や周辺住民の方々の生活環境に最大限配慮し、辺野古移設に向けた工事を進めてまいります。



(令和3年12月撮影)



(令和3年12月撮影)  
N-2護岸 揚土作業状況



(令和3年11月撮影)  
N-2護岸 設置完了

## 環境監視等委員会(第34~35回)を開催



令和3年11月8日(第34回:ホテルサンパレス球陽館)及び12月24日(第35回:パシフィックホテル沖縄)に「普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境監視等委員会」を開催しました。

同委員会ではレッドリストサンゴ類の生息状況などについて当局から説明を行い、質疑応答が行われました。

普天間飛行場代替施設建設事業の実施に当たっては、これまでも同委員会の指導・助言を踏まえ、適切な環境保全に努めてきたところであり、今後とも引き続き、同委員会の指導・助言を得ながら適切に進めてまいります。

# 令和 4 年度 沖縄関係予算政府案について

令和 4 年度沖縄防衛局に係る沖縄関係政府予算案は、次のとおりとなりました。

(単位：億円、%)

事 項	令和 3 年度 予 算 額	令和 4 年度 予 算 額	対前年度 増△減額	対前年度 伸 率
1. 基地周辺対策経費	< 324 > 290	< 363 > 355	< 39 > 65	< 12.1 > 22.4
住宅防音	< 120 > 122	< 126 > 128	< 6 > 6	< 4.9 > 4.8
周辺環境整備	< 204 > 168	< 238 > 227	< 34 > 59	< 16.4 > 35.1
2. 補償経費等	< 1,056 > 1,081	< 1,101 > 1,071	< 45 > △ 10	< 4.3 > △ 0.9
(1) 施設の借料	1,037	1,048	11	1.1
土地等の借料	1,030	1,040	10	1.0
その他(道路使用等)	7	9	1	18.3
(2) 漁業補償	12	12	0	△ 3.9
(3) その他の補償等	< 6 > 31	< 40 > 10	< 34 > △ 21	< 6.4倍 > △ 66.7
3. 基地従業員関係	493	487	△ 5	△ 1.1
4. 提供施設の整備	< 49 > 57	< 127 > 76	< 78 > 19	< 2.6倍 > 33.8
合 計	< 1,921 > 1,920	< 2,079 > 1,989	< 157 > 69	< 8.2 > 3.6

注：1 上段〈 〉内は、契約ベースです。

2 計数は、四捨五入によっているのが符合しないことがあります。また、表中における符号「0」は単位未満です。

3 基地周辺対策経費には、米軍再編関係経費（地元負担軽減分）等に計上した経費を含みます。

令和4年度特別行動委員会(SACO)関係経費  
【沖縄関係】

令和4年度米軍再編関係経費(地元負担軽減に資する措置)  
【沖縄関係】

(単位: 億円、%)

事 項	令和3年度 予 算 額	令和3年度 補正予算額	令和4年度 予 算 額	R3補正予算+ R4予算案	対前年度 増△減額	対前年度 伸 率
1 土地返還のための事業	< 3 > 3	-	< 3 > 3	< 3 > 3	< 1 > 0	< 20.7 > △ 5.4
2 訓練改善のための事業	0	-	0	0	0	△ 0.5
3 SACO事業の円滑化を 図るための事業	< 4 > 15	-	< 2 > 2	< 2 > 2	< △ 2 > △ 14	< △ 57.8 > 88.9
合 計	< > 19	-	< 5 > 5	< 5 > 5	< △ 2 > △ 14	< △ 27.5 > 74.4

(単位: 億円、%)

事 項	令和3年度 予 算 額	令和3年度 補正予算額	令和4年度 予 算 額	R3補正予算+ R4予算案	対前年度 増△減額	対前年度 伸 率
1 沖縄における再編のための事業	1,905 786	193 839	1,692 762	1,886 1,601	△ 20 815	△ 1.0 2.0倍
(1) 普天間飛行場の移設	846 552	190 803	1,030 355	1,220 1,158	374 606	44.3 2.1倍
(2) 嘉手納以南の土地の返還	1,060 233	4 36	662 406	666 442	△ 394 209	△ 37.2 89.6
2 再編関連措置の円滑化を図るため の事業	94 69	- -	112 104	112 104	18 34	19.2 49.6
合 計	2,000 855	193 839	1,805 865	1,998 1,704	△ 2 849	△ 0.1 99.3

注：1 上段 < > 内は、契約ベースです。

2 計数は、四捨五入によっているので符合しないことがあります。また、表中における符号「0」は単位未満です。

寄稿

～キャンプ・シュワブ海兵隊員による  
英会話の取り組みについて～

【キャンプ・シュワブ 地域渉外官 伊波文雄】

キャンプ・シュワブでは、地域の社会人を対象に英語講座を行っています。この取り組みは20年前に始まり、これまでに延べ3,000人以上が受講しています。週2回実施されている講座には、ボランティア講師として務める海兵隊員から、受講生が会話を通して実用的な英語を学んでいます。本年度(2021年度)の講座には67名の日本人受講生と22名の米国人ボランティアが登録しています。

大学一年生から80代前半の受講生は、平日(火曜日と水曜日)の夕方に、北は国頭村、南は南風原町からキャンプ・シュワブへと集まってきます。受講生の出席率は比較的高く、中には10年近く通っている受講生も少なくありません。2016年には、当時のケネディ駐日アメリカ合衆国大使も視察に訪れています。

これからも、キャンプ・シュワブの海兵隊員はこの取り組みを通し、今後も地域の皆様とより良い関係を築き、緊密に連携していく所存です。



教室の様子



参加者全員で記念撮影

# キャンプ・ハンセン再編に係る給食センターの完成について

沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画において、牧港補給地区の倉庫地区の大半を含む部分の返還に伴い移設を要する施設の一つとして、同地区に所在する給食センターをキャンプ・ハンセンに移設する工事を進めていたところ、令和3年11月末、同施設が完成しました。

本施設は、各在沖海兵隊施設の食堂等で隊員に提供される食事の一部が、クックチル製品として一括調理され、各施設等に配膳するための施設です。

当局としましては、引き続き、一日も早い嘉手納以南の土地の返還が実現できるよう移設に向けた作業について全力で取り組んでまいります。

## 豆知識

### 米軍施設における食事について

～クックチルとは～

アメリカ農務省に認可された一連の食品生産システムです。

湯煎調理などによる調理後、急速冷却によってチルド保存し、各食堂において再加熱(再調理)することで、適温で提供することができます。

低コスト・高い安全性かつ大量調理が可能で、病院、機内食、チェーンレストランなどでも同システムが導入されています。

湯煎調理の様子

各食堂における再調理の様子(イメージ)

各食堂等に配送

※出典：国防総省ホームページ(平成23年12月撮影)

(配送イメージ)

北部訓練場

キャンプ・シュワブ

キャンプ・コートニー

キャンプ・ハンセン

牧港補給地区から仕入れた食材を使用してクックチル製品を製造し、各海兵隊施設に配膳

キャンプ・瑞慶覧

普天間飛行場

牧港補給地区

食材を一括調達し、キャンプ・ハンセン(給食センター)に配送

注：クックチル製品が配送される主要な施設名のみ記載

～食材が各施設に届くまで～

主要な在沖米軍施設内には、隊員食堂が備わっており、牧港補給地区に卸された食材が、各食堂のニーズに合わせて配送され、年間を通して使用される献立に基づき調理されています。

在沖米海兵隊では、クックチル製造に適している一部の献立を、給食センターで一括調理し、各海兵隊施設の食堂へ配膳しています。

食堂の様子(普天間飛行場)

※出典：国防総省ホームページ(平成23年10月撮影)

各食堂への配膳以外にも、

- ・屋外(演習場)における調理・給食
- ・基地内レストラン
- ・艦船
- ・学校施設などにおいてもクックチル製品が使用されています。

## 食事の製造や食材の調達に携わる人の声



※撮影時のみマスクを外しています。  
キャンプ・ハンセン  
エディ・パワーズ氏  
(食品製造責任者)

給食センターを含め各海兵隊員食堂において、日々、大量の食事を作っていますが、大量の食事を作るにあたっては、調理員など日本人従業員の方々なしでは成り立たず、総勢約350名(全海兵隊施設)の方がこれらの施設で勤務しています。



※撮影時のみマスクを外しています。  
牧港補給地区  
ジェームス・リース氏  
(調達責任者)

私たちが在沖米軍が仕入れている食材のうち、野菜及び果物については、毎月、沖縄県内の卸業者から約70種目の新鮮な野菜・果物を購入しています。(毎月3,000万円程度)

産地については、地元のスーパーと同じように、時期によってバラつきはあるものの、県産品も多く仕入れています。これらの2割～3割が給食センターに納入されています。



仕入れた食材の一部  
(例：沖縄県産レタス約300ケース/週)